

## 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	土屋 和之
研究課題	ドイツにおける ESG 情報の開示				
研究キーワード	ESG, ドイツ, EU	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連する SDGs項目	13. 気候変動に具体的な対策を	該当なし	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究の目的は、ドイツで 2017 年に導入された CSR 指令実施法、ドイツ・サステナビリティコードによって作成が義務付けられた非財務報告書の開示の実態を調査することによって、日本での ESG 情報の開示のあり方を検討することであった。</p> <p>そのため、まず、CSR 指令実施法、ドイツ・サステナビリティコードの規定の整理と把握、および非財務報告書の記載内容の整理を行った。その上で、すでに行われている、いくつかの非財務報告書の開示実態を調査した研究から、本研究の対象とする会社の範囲を確定することとした。</p> <p>ところが、すべての調査研究で、開示義務のある会社の範囲が必ずしも明確でないこと、また、規模の小さな会社が含まれることなどから、本研究の対象である非財務報告書の入手の大部分がかなり困難であることが判明した。本研究の方法は、いくつかの事例を取り上げた事例研究ではなく、自然言語処理の方法によって開示内容を分析することから、十分な非財務報告書が収集できないのであれば成果は期待できないと判断した。</p> <p>欧州では European Single Access Point が 2024 年末までに整備され、欧州の一定の会社の非財務報告書の一家所で閲覧可能になる予定である。引き続き規制の動向を把握しつつ、非財務報告書の入手可能性を見極めながら、本研究に取り組むことにしたい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし。</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>なし。</p> <p>【学会発表等】</p> <p>なし。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>関連する資料の収集等に支出した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特になし。</p>					

(本文は 2 ページ以内にまとめること)